

浮世絵風景画

広重・清親・巴水 三世代の眼

2021年7月10日(土)–9月12日(日)

前期 8月9日(月・振休)まで

後期 8月12日(木)から

※全点展示替え!



江戸の歌川広重

明治の小林清親

大正・昭和の川瀬巴水

各時代に優れた風景版画を制作した3世代3人の作品を紹介します。

どこかなつかしい、100年にわたる日本の原風景を、旅するようにご堪能ください。

UKIYO-E LANDSCAPES

Hiroshige, Kiyochika, and Hasui—Eyes of Three Generations

本展は新型コロナウイルスの影響のため、当初予定されていた会期（2020 年度）より 1 年延期して開催します。

開催趣旨

町田市立国際版画美術館では、浮世絵の魅力を紹介することを目的に、2017 年より「はんび浮世絵プログラム」と題した展覧会シリーズを実施してきました（2017 年「明治維新から 150 年 浮世絵にみる子どもたちの文明開化」展、2018 年「浮世絵モダン 深水の美人！ 巴水の風景！ そして…」展、2019 年「美人画の時代—春信から歌麿、そして清方へ—」展を開催）。

この最後を飾る展覧会として、「浮世絵風景画—広重・清親・巴水 三世代の眼—」展を開催します。江戸の歌川^{うたがわひろしげ}広重（1797-1858）、明治の小林^{こばやしきよしか}清親（1847-1915）、そして大正から昭和の川瀬^{かわせ}巴水^{はすい}（1883-1957）。各時代に優れた風景版画を制作した三人の絵師・画家を紹介します。

江戸後期の浮世絵界では、旅や名所に対する関心の高まりを背景に、「風景」が「美人」「役者」と並ぶ人気ジャンルとして大きく花開きました。その第一人者である広重は、四季豊かな日本の風土を数多くの「名所絵」に描き、後世の絵師たちに影響を与えてゆきます。その後、明治初期には清親が「光線画」と呼ばれる風景版画を発表。文明開化後の東京を繊細な光と影で表し、名所絵に新たな表現をもたらしました。そして大正期、すでに浮世絵がその役目を終えたころ、伝統木版画の技術をよみがえらせた「新版画」が登場します。巴水は関東大震災前後の東京や旅先の景色を抒情的にとらえ、風景版画の系譜を継いでゆきました。

本展では、変わりゆく日本の風景を「三世代の眼」がどのようにみつめ表現してきたのか、その違いを対比しながら、時代を超えて響きあう風景観や抒情性に着目します。100 年にわたる日本の風景を、旅するようにご堪能ください。



①歌川広重「東海道五拾三次之内 庄野 白雨」
天保 7 年（1836）頃、
町田市立国際版画美術館蔵【前期】

本展の見どころ

①ありそうで無かった、風景版画の巨匠 3 人のコラボレーション！

名所絵の第一人者・広重と、その遺伝子を受け継ぐ清親と巴水。国内外で高く評価される三者の作品が一堂に介する本展覧会は、これまでにありそうで無かった、待望の企画です。

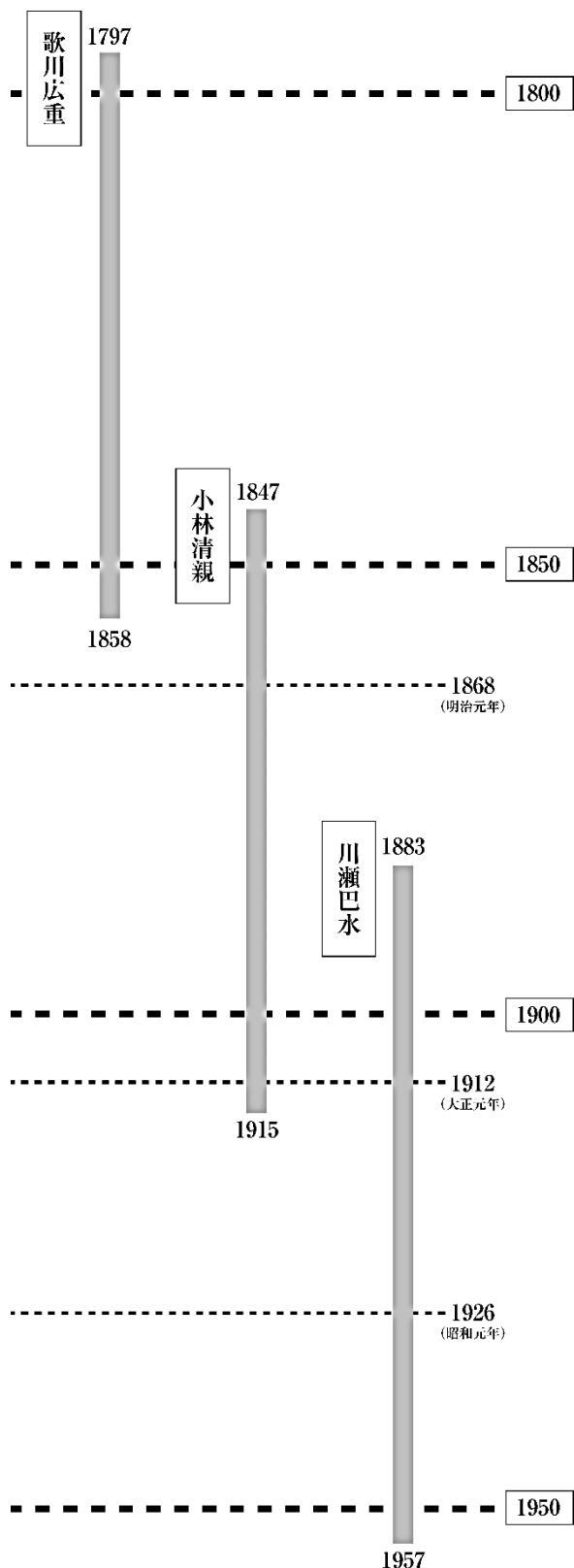
②370 点超の大ボリューム！

出品点数は 373 点！3 人の競演はもちろん、広重、清親、巴水、それぞれの絵師・画家の風景表現の魅力を深く掘り下げます。前期・後期で全点展示替えを行います（リピーター割引があります）。

③100 年にわたる日本の原風景をタイムトラベル

江戸から東京へ——100 年にわたる日本の原風景を、旅するようにお楽しみいただきます。訪れたことがないのにどこか懐かしい、ほっとするような風景に出会えるかもしれません。

出品作家について



歌川広重 うたがわ・ひろしげ (1797-1858)

東海道の風景を季節や天候、時刻の移ろいととともに描いた保永堂版の『東海道五拾三次』の成功で絵師としての人気を一気に高めると、以後、膨大な名所絵を世に送り出し、この分野の第一人者の地位を不動のものとなりました。

小林清親 こばやし・きよちか (1847-1915)

明治初期に文明開化後の東京を描いた『東京名所図』シリーズを制作し、浮世絵による風景表現に新機軸を打ち出した浮世絵師。西洋画の光と影による空間表現を取り入れた「光線画」と呼ばれる作品を制作しました。

川瀬巴水 かわせ・はすい (1883-1957)

大正から昭和にかけて、浮世絵版画に学びつつ近代的な視点で新しい木版画を制作した、「新版画」を代表する画家。日本全国を旅しながら独自の感覚によって抒情的な風景を描き、国内外で高く評価されました。

展示構成と主な作品

1 章 江戸から東京へ—三世代の眼

江戸の広重、明治の清親、大正・昭和の巴水——三人はそれぞれ異なる時期に活躍し、師弟関係など特別な繋がりはありません。しかしながら、なぜかこれまで三人の作品は比べられ、並び称されてきました(清親、巴水はそれぞれ「明治の広重」「昭和の広重」と呼ばれるほど)。

本章では、三人の江戸・東京風景をともに並べ、比べてみます。建造物や街並みが時代とともに明らかに様相を変える一方で、彼らのまなざしが変わらない風景の側面をとらえていることが見て取れるでしょう。時代を超えて私たちの心の風景を形成してきた「三世代の眼」を辿ります。

雨の新大橋

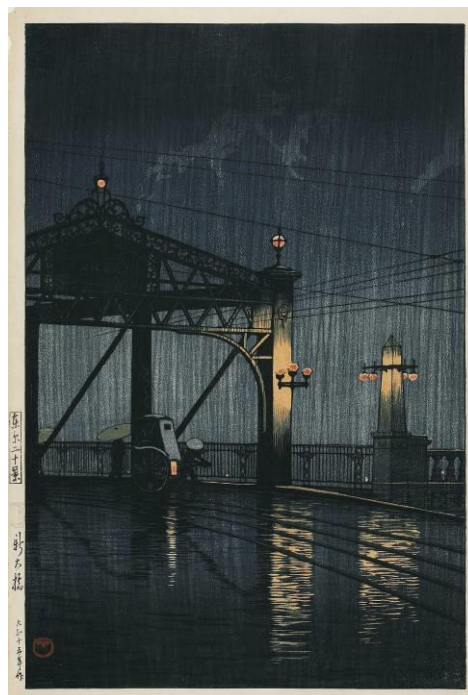
広重の名作「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」以降、「新大橋」と「雨」の組み合わせが継承されていきます。広重の細い線による雨、清親の川面のゆらぎ、巴水の濡れた地面の質感…それぞれの特徴を味わうことができるでしょう。



歌川広重「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」
安政4年(1857)、東京藝術大学蔵【後期】



②小林清親「東京新大橋雨中図」明治9年(1876)頃、
町田市立国際版画美術館蔵【後期】



③川瀬巴水「東京二十景 新大橋」大正15年(1926)、
町田市立国際版画美術館蔵【後期】



歌川広重「名所江戸百景 亀戸天神境内」
安政3年(1856)、
東京藝術大学蔵【前期】

亀戸天神の太鼓橋

モネにも影響を与えた広重の「太鼓橋」も、時代とともにアップデート。清親は橋を斜めから描き、巴水は藤の立体感を強調。どの作品にも登場する親子は、まるでタイムトラベルしているかのよう？



④小林清親「武蔵百景之内 亀井戸天満宮」
明治17年(1884)、
株式会社渡邊木版美術画舗蔵【前期】



⑤川瀬巴水「亀戸の藤」
昭和7年(1932)、
株式会社渡邊木版美術画舗蔵【前期】



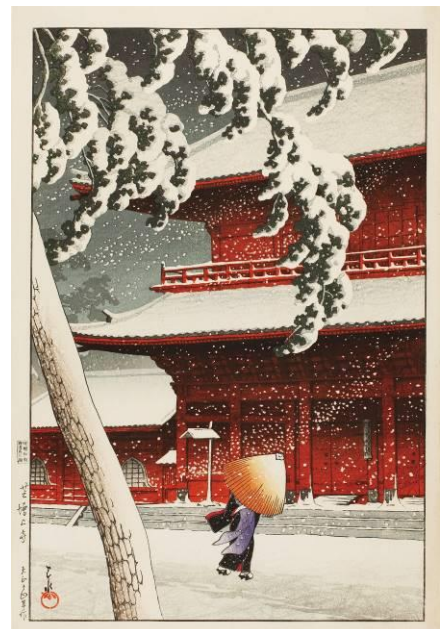
⑥歌川広重「東都名所 芝増上寺雪中ノ図」
天保(1830-44)末期、個人蔵【前期】

雪の芝増上寺

巴水の名作「芝増上寺」は一日にしてならず！
ルーツをさぐれば、広重、清親そして巴水への
リレーを見出すことができます。

中央：⑦小林清親
「武蔵百景之内 芝増上寺雪中」
明治17年(1884)、
株式会社渡邊木版美術画舗蔵【前期】

右：⑧川瀬巴水
「東京二十景 芝増上寺」
大正14年(1925)、
町田市立国際版画美術館蔵【前期】



2 章 歌川広重—江戸の名所絵

江戸後期の旅行や行楽への関心の高まりのなか、名所絵が浮世絵の一ジャンルとして急成長。広重は四季豊かな日本の風土を木版画でみごとに表現し、この分野の第一人者としての地位を不動のものとししました。今なお愛されるその作風は、同時代だけでなく、後世の風景版画家たちにも大きな影響を与えています。

1節 東海道の絵師、広重

『東海道五拾三次之内』（保永堂版）は広重の代表作の一つ。この成功で「東海道の絵師」としての評判を得た広重は、晩年までに約 20 種もの東海道の揃物を手掛けることになります。

⑨歌川広重「東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景」
天保 4-5 年（1833-34）頃、
町田市立国際版画美術館蔵【前期】



⑪歌川広重「四季江都名所 冬 隅田川之雪」
天保（1830-44）前期、
個人蔵【後期】



⑩歌川広重「東都名所 吉原仲之町夜桜」
天保（1830-44）前期、個人蔵【前期】

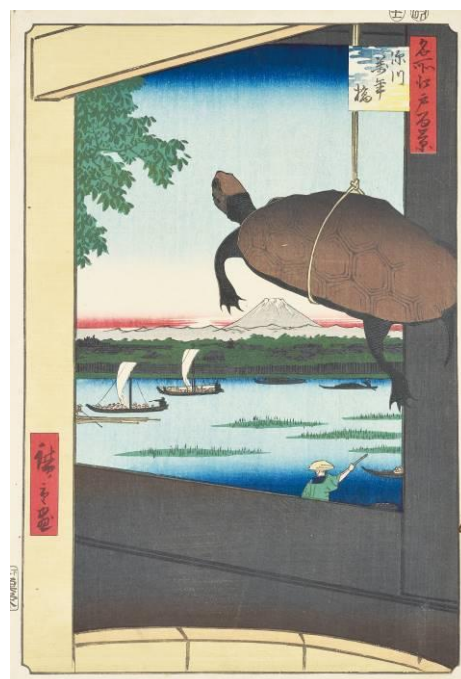
2節 さまざまな江戸名所絵

錦絵は花のお江戸の様子を視覚的に伝えるツール。
広重は多種多様な江戸名所揃物を手掛け、その繁栄と豊かな情緒を映し出しました。

3節 縦絵の新視覚

江戸末期には画帖・冊子化に適した豎判（縦長の判型）の錦絵揃物が大流行。広重はこの豎判に合わせて新たな構図法を採用し、視覚的にインパクトのある作品を生みしました。

⑫歌川広重「名所江戸百景 深川万年橋」
安政 4 年（1857）、個人蔵【前期】



3章 小林清親—明治の光線画

明治時代、浮世絵風景画は人びとの関心を誘うように新しい名所や表現を取り込みながら色彩豊かに発展。なかでも特筆すべき活躍を果たしたのが清親です。「光線画」の名称で知られる『東京名所図』シリーズは、ガス灯や月光、蛍の光などをかつてない手法で巧みに表し、浮世絵風景画に新風をもたらしました。

1節 新しい風景、新しい暮らし

文明開化により目まぐるしく変動する社会が題材に。しかし当時流行した「赤絵」と呼ばれる鮮やかな浮世絵とは異なり、より自然な色彩で、新旧入り交じる人びとの日常が描き表されています。



⑬小林清親「高輪牛車町月景」明治12年（1879）、町田市立国際版画美術館蔵【後期】



⑭小林清親「内国勸業博覧会瓦斯館イルミネーション」明治10年（1877）頃、個人蔵【前期】

2節 天候・時刻のうつろい

空や水面のグラデーションにみる、時刻や季節のうつろい——夕暮れ時から夜中にかけての繊細な光と影の表現は、光線画の真骨頂です。



⑮小林清親「神田川夕景」明治14年（1881）、町田市立国際版画美術館蔵【後期】

3節 江戸浮世絵への回帰

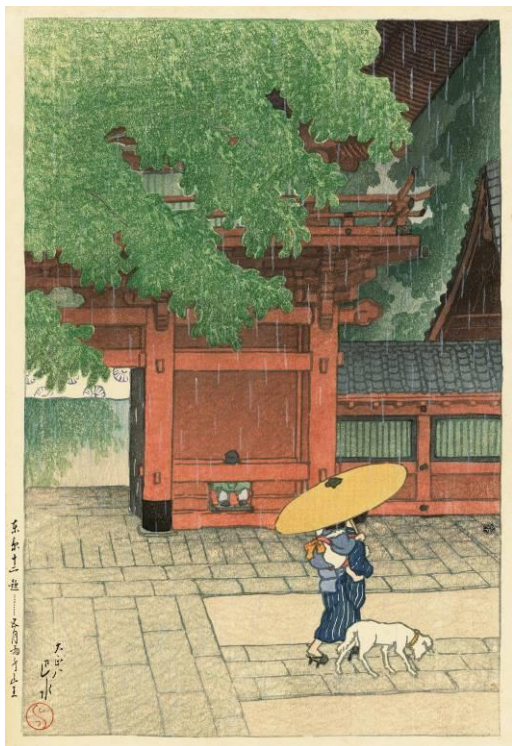
「光線画」制作を終えると、広重の『名所江戸百景』に強く影響を受けた『武蔵百景』シリーズを制作。江戸回帰の傾向をみせました。



⑯小林清親「武蔵百景之内 両国花火」明治17年（1884）、株式会社渡邊木版美術画舗蔵【前期】

4 章 川瀬巴水—大正・昭和の新版画

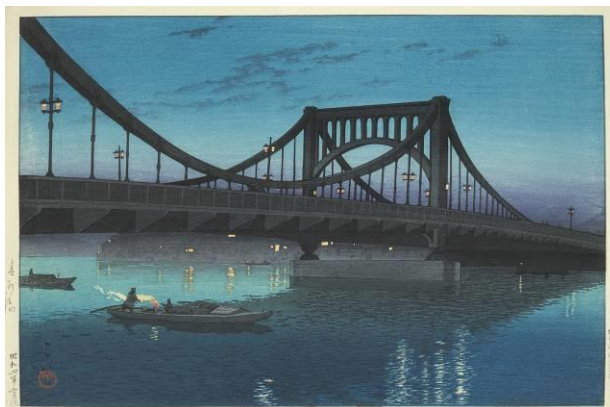
大正中期の版画界では、浮世絵の伝統木版の技術を継承しながら、新しい時代にふさわしい創作性をもった「新版画」の制作出版が行われました。その代表的な画家のひとりが巴水です。巴水は従来の名所にこだわらず、自らの眼で風景を選び、写生し、版画化しました。その作品は今も多くの人々を魅惑しています。



⑪川瀬巴水「東京十二題 五月雨ふる山王」
大正 8 年（1919）、ギャラリーそうめい堂蔵【前期】

1 節 東京風景—自然と伝統への同化

東京生まれの巴水は、東京をモチーフとした数タイトルのシリーズを制作しました。創作版画家のように都会特有のモチーフを最前面に取り上げるのではなく、都会のなかの自然や伝統に目を向け、調和、共存する姿として描いています。



⑫川瀬巴水「清洲橋」昭和 6 年（1931）、
株式会社渡邊木版美術画舗蔵【後期】

2 節 旅行と風景—浪漫への誘い

何が好きかと聞かれれば「旅行！」と答えた巴水。北海道から九州まで全国へ写生に出かけ、東京に戻って版画制作に打ち込むという生活に明け暮れました。



⑬川瀬巴水「旅みやげ第一集 秋の越路」
大正 9 年（1920）、千葉市美術館蔵【前期】



⑭川瀬巴水「日本風景集 東日本篇 平泉中尊寺金色堂」
昭和 10 年（1935）、株式会社渡邊木版美術画舗蔵【後期】

開催概要

展覧会名 浮世絵風景画—広重・清親・巴水 三世代の眼—

Ukiyo-e Landscapes: Hiroshige, Kiyochika, and Hasui—Eyes of Three Generations

会 期 2021 年 7 月 10 日（土）～9 月 12 日（日）＜55 日間＞

前期・後期で全点展示替え！ 前期 8 月 9 日（月・振休）まで／後期 8 月 12 日（木）から

休 館 日 月曜日、8 月 10 日（火）、展示替えのため閉室：8 月 11 日（水）

◆ただし 8 月 9 日（月・振休）は開館し、8 月 11 日（水）は企画展示室（本展）以外は通常どおり開館

開館時間 平日 午前 10 時～午後 5 時 土日祝 午前 10 時～午後 5 時 30 分（入場は 30 分前まで）

会 場 町田市立国際版画美術館 企画展示室 1、2 （巡回先なし）

主 催 町田市立国際版画美術館

助 成 芸術文化振興基金

認定プログラム 町田市文化プログラム、Tokyo Tokyo Festival

観 覧 料 一般 900（700）円、大・高生 450（350）円、中学生以下無料

*（ ）内は 20 名以上の団体料金

*身体障がい者手帳、愛の手帳（療育手帳）または精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と付き添いの方 1 名は半額

無 料 日 ※状況により中止となる場合があります。

◆展覧会初日：7 月 10 日（土）

◆シルバーデー（65 歳以上の方は無料）：7 月 28 日（水）・8 月 25 日（水）

割 引 リピーター割引（200 円引）

着物割引、WEB 割引、シェアサイクル割引、タクシー割引、パスポート割引（以上 100 円引）

無料送迎バス

土日祝、シルバーデーは町田駅前からの無料送迎バスを運行！

時刻表や停車場所などの詳細は当館 HP をご覧ください。

内覧会のご案内

2021 年 7 月 9 日（金）午前 11 時～午後 4 時（受付は午後 3 時 30 分まで）

※開会式は開催いたしません。

関連イベント

※①、②は当日正午より1階受付にて整理券を配付します(先着順)。

※状況により中止、変更となる場合があります。詳しくは当館ホームページをご確認ください。

①記念講演会

「小林清親の広重学習—《東京名所図》と《武蔵百景》を中心に—」

7月18日(日) | 講師: 赤木美智(太田記念美術館主幹学芸員)

「『彩』と『趣』—広重・清親・巴水をつなぐもの—」

8月7日(土) | 講師: 大久保純一(当館館長)

▶各回午後2時~3時30分 | 会場: 講堂 | 要整理券(先着60名) | 要本展観覧券(半券可)

②復刻浮世絵版木摺り体験

7月24日(土)

①午後1時30分~2時30分(小中学生対象・体験のみ・所要5分程度)

②午後3時~3時50分(一般対象・所要50分・小学5年生から参加可)

指導: 当館学芸員 | 会場: アトリエ | 要整理券 | 定員: ①15名、②10名 | 参加費100円

③^{せりがや}芹ヶ谷はんび寄席

8月1日(日) 午後1時30分~3時30分

演者: 林家正雀(落語)、林家彦三(落語)、鏡味仙成(太神楽)、のだゆき(音曲)

会場: 講堂 | 事前申込制(先着60名) | 要本展観覧券(半券可)

申込方法: 町田市イベシス HP(イベシスコード: 210707A)、またはイベントダイヤル(☎042-724-5656)

申込期間: 7月7日(水) 正午~7月28日(水) 午後7時

④こどものための鑑賞会 おうちで版画美術館

8月18日(水) 午前10時~11時

講師: 富田めぐみ(NPO 法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)

会場: オンライン(Zoom)

対象: 小学生 | 事前申込制(先着15組) | 参加無料

申込方法: メール(mc-city4630@city.machida.tokyo.jp)へ

①参加者全員のお名前(ふりがな)

②年齢・学年

③メールアドレス

④お住まい(〇〇市・区まで)をお送りください。

申込期間: 7月27日(火)~8月12日(木)



②小林清親「隅田川夜」明治14年(1881)頃、町田市立国際版画美術館蔵【後期】

⑤Slide Lecture in English | 英語によるスライドレクチャー

“The Japanese Cityscape in Print: Hiroshige to Hasui”

August 22 (Sun.) 14:00~15:00 | Speaker: Frank Witkam (Associate Fellow, Tokyo National Museum)

Venue: Lecture Hall | Limited to 60 visitors, on a first-comes, first-in basis. | Free with exhibition admission (ticket stubs are also accepted).

8月22日(日) 午後2時~3時 | 講師: フランク・ウィットカム (東京国立博物館アソシエイトフェロー)
会場: 講堂 | 先着 60 名 | 要本展観覧券 (半券可)

⑥担当学芸員によるスライドトーク

「巴水 大正・昭和の新版画」 | 7月17日(土) | 担当: 滝沢恭司

「広重・清親の浮世絵風景画」 | 8月29日(日) | 担当: 村瀬可奈

▶各回午後2時~2時45分 | 会場: 講堂 | 先着 60 名 | 要本展観覧券 (当日有効)

⑦プロムナード・コンサート「音楽と風景」

9月11日(土) ①午後1時~ ②午後3時~ (各回 30 分程度)

演奏: 玉川大学芸術学部学生、桜美林大学芸術文化学群学生 | 会場: エントランスホール

申込不要 | 参加無料

※新型コロナウイルス感染症対策のため入場制限をする場合があります。

☆シルバーデー(会期中の第四水曜日)

7月28日(水)・8月25日(水) はシルバーデー! 65歳以上の方は入場無料です。

同時開催

ミニ企画展「浮世絵モダン 橋口五葉と伊東深水を中心に」

2021年6月30日(水)~9月12日(日)常設展示室 入場無料

※展示替えなし

問い合わせ

町田市立国際版画美術館(〒194-0013 町田市原町田 4-28-1)

展覧会担当/村瀬可奈(むらせ・かな)、滝沢恭司(たきざわ・きょうじ)

電話: 042-726-0860 FAX: 042-726-2840

メール: bunspo040_05@city.machida.tokyo.jp(村瀬)



②橋口五葉「髪梳ける女」
大正9年(1920)、
町田市立国際版画美術館蔵
※ミニ企画展出品作

広報画像①~②、プレゼント用招待券のお問い合わせは、下記メールアドレスへご連絡ください。

広報用メールアドレス: bunspo040@city.machida.tokyo.jp

※件名に「浮世絵風景画広報」と明記をお願いいたします。